

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	利府こども発達センターあのね		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 2 8 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 2 8 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 3 0 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会資源を活動に取り入れやすい環境にある。	買い物体験など生活に即した活動では、一つのお店に偏らず、地域のお店で買い物ができるようにしている。大型のスーパーなども利用し、購入するお店を選択したり、フードコートでの食事のルールなどを学びの機会としている。施設見学などは長期休みや下校時間の早いときを中心に取り入れている。利用児の年齢幅があっても楽しめること、集団で見学するからこそ楽しめるように、移動中のバスの中から気持ちを向けられるようにクイズを出すなど導入の工夫をしている。	新しいお店や施設情報を常に取り入れ、職員間で共有し、新しい社会資源の開拓をしながら、さらなる活動の充実を図っていく。
2	管理者と一緒に活動に参加しているので、理解や協力がある。	事業所内で理解があり、チーム間での協力体制が活動を支えている。	関わる大人数が数多くいる事は将来につながるので、メリットと捉えて、チーム内の職員だけでなく、他のチームからへのヘルプを頂きながら活動を継続していく。
3	法人内の事業所間で交流できる。	令和7年度は定期的な交流活動を計画している。他の事業所の利用児との交流機会を作ることで、いつもいるメンバーでない刺激をもらいながら社会性を育んでいく。	放課後等デイサービス事業所は法人内に4つあるので、それぞれ交流できる機会を作り、仲間意識や社会性をさらに育んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園庭が狭い。	限られたスペースなのは仕方ない。	園庭活動する人数を分けたり、人数が多いときに地域の公園へ出かける等の工夫をしているので、引き続き対応していく。
2	利用児が使用する玩具などを収納・整理するスペースが足りない。	限られたスペースなのは仕方ない。	収納の仕方や収納するものを考え直して、定期的な整理整頓をしていく。
3	職員の人数や顔ぶれが流動的である。	多機能型であるためにチームの仕事だけでなく、ショートステイや週末勤務がある。平日に不在になるのは仕方ない。放課後等デイサービスを終了した後の利用利用につながる事業なので、長い目で見ると継続性はある。	いろいろな人が関わることをメリットと捉え、支援していく。利用児の情報をチームみんなで共有できるようにさらに意識していく。